まいづる元気人 Vol.28

趣味が仕事 農業は生活であり生きがい

「元気もりもり農園」を経営 **森 剛（つよし）** さん

新規就農を考えている人と、農業の担い手が不足している地域を橋渡しする府の事業「担い手養成実践農場」に取り組み、本年5月28日に修了証を交付され、現在は赤野地区で万願寺甘とうやトマトなどを栽培されている森さんに農業への思いや将来の目標についてお話しを伺いました。

収穫の手伝いがきっかけで農業の道へ

「元々農業に興味があったわけではない」と語る森さん。何か変わったことがしたいと高校を卒業後、沖縄へ渡る。そこでサトウキビやタバコの収穫を手伝ううちに農業に興味を持ったという。「一度原点に戻ってみろ」という農家の人の言葉を受けて舞鶴に戻り、母の地元であり、親戚が農業を営む赤野での営農を決意した。

舞鶴に戻ってからは、舞鶴ふるるファームで8年間にわたり栽培や販売の仕事をしていた。直売所に作物を持ってこられる農家の方々の生き生きとした表情をみて「うらやましいなあ」と感じたという。そして、栽培の仕事をするうちに自営でやっていけると確信し、「担い手養成実践農場」で研修を受けることにした。

研修では、地元で60年農業一筋というベテラン農家の坂根敏一さんの指導の中で、「農家は毎年気候に応じて農業のやり方を変える。同じことは一度もないし、今でも毎日が勉強だ」という言葉が特に印象に強く残っている。

農業だけで家を建てたい

農家の担い手不足については「儲からないというイメージが大きな原因だと考えている。また、『田舎暮らし』のイメージから、生活の不便さや地域との付き合いを一度に背負うことへ不安を感じ、就農に踏み出せない人もいると思う」と話す森さんは現在、市街地に住みながら農園へ毎日通っている。将来は農業の収入のみで農園のある赤野に家を建てるのが目標で、「農業だけで会社員レベルの生活ができるということを証明したい」と自信をのぞかせた。

市内での新規就農や担い手養成について聞いてみると「大浦でも少しずつ農地が空き始めている。市内では加佐地域で就農される人が多いので大浦でももっと就農者が増えて地域全体に元気が出て欲しい」と、若い力で農業や地域に貢献したいという思いを語った。

100%舞鶴産のほんまもん野菜

森さんは白いナスや黄色いトマトといった変わった野菜も作る。「こういった野菜を買ってもらえると、食卓での話題を提供できるし、食卓に笑顔を届けられる。そうやって農家と家庭の間をつなぐパイプのような役割になりたい」と仕事への思いを語る。そして、自身の農園のフェイスブックでも野菜や料理の写真を掲載するなど、「若手」ならではの方法で野菜の話題を発信している。夢は「100%舞鶴産のブランド野菜」を作ること。「舞鶴は自然の豊かな所。収穫されたカキの殻を石灰に、海藻を堆肥に、牛糞や鶏糞も市内の牧場、養鶏場から手に入る。全て地元のもので作り上げたブランド野菜を売り出したい」そう語る姿からは、絶対にやって見せるという熱い思いが感じられた。

まいづる花図鑑 vol.109

ヤマジノホトトギス
（ユリ科）

見ごろ 7～9月頃

各地の山地の道端などに生える多年草。茎は高さ30～50㌢位で直立または斜上し、普通は枝分かれしない。葉は互生し長楕円形で先はとがる。基部は茎を抱き、両面にまばらに毛がある。秋、茎の先端や上部の葉の腋（わき）に1～2個ずつ花をつける。花は白色で平開し、内面に紫色の斑点がある。

名前の由来は山路（やまみち）でよく見られ、斑点が鳥のホトトギスの胸の斑点に似ていることから。

【協力】瓜生勝朗　市文化財保護委員（植物分野）

MAIZURU 広報まいづる9月号

発行・舞鶴市（〒625-8555 京都府舞鶴市字北吸 1044、☎62・2300）
〈ホームページ〉http://www.city.maizuru.kyoto.jp/
編集・広報広聴課（☎66・1041、FAX 62・7951）　基本デザイン、一部編集、印刷・有限会社みどり印刷

まいづるメール配信サービス
防災情報、観光・イベント情報など
▶登録は、こちらのコードから